

自分の意見を発信する －新聞に意見を投稿してみよう－

- 1 科目名 国語表現
- 2 単元名 小論文・レポート入門
- 3 教材名 資料を読み取って書く・発想を広げて書く
- 4 単元の内容

単元の目標
と評価規準
・評価方法

①単元の目標

- | | |
|---|--|
| ア | 主張や感動などが効果的に伝わるように、論理の構成や描写の仕方などを工夫して書こうとする。
(関心・意欲・態度) |
| イ | 主張や感動などが効果的に伝わるように、論理の構成や描写の仕方などを工夫して書く。
(書く能力) |

②単元の目標設定の理由

- ・本校の多くの生徒が推薦入試による大学進学を目指しており、小論文指導の重要度は高い。しかし、社会問題や自らの関心のある分野についての情報を持っていないという生徒がほとんどである。まずは自分にとって必要な情報を収集、整理し、社会で起きている問題についての知識を少しでも持ってほしいと考えて新聞を活用した情報収集をこれまで行ってきた。さらに、そこから書き方の指導へつなげる一歩として、新聞への投書を行ってみたい。新聞への投書は比較的字数も少なく、限られた字数の中で簡潔に説得力のある文章を書く力を養うことができるのではないかと考えた。また、新聞の投書欄や他の生徒の投書原稿を読むことでさらに社会問題への関心を広げるとともに、別の視点を知ることで自分の考えを深めるきっかけにもなるのではないだろうか。
- ・今回は国語表現の授業の一環として、ミニ新聞の作成から投書へという形で実施した。ミニ新聞作成の際に取り上げたテーマで投稿することを勧めたが、経験に基づいた投書を選ぶ生徒が多かった。その他にも、現代文で学習した教材や他教科での学習を基にした投書、部活動やホームルーム活動、学校行事での経験を基にした投書など、さまざまな場面へ汎用可能な取組である。

③中心となる学習活動

- ・新聞の投書に関心を持つため、投書欄に掲載された文章を読んでみる。その中から興味のある投書を選び、学習プリントにまとめる。
- ・自分が選んだ投書の紹介をする。(グループ交流)
- ・身近な問題や社会問題から題材を探し、投書の原稿を作成する。(グループでの交流)
- ・これまでに実際に新聞に掲載された文と生徒が新聞社に送った元原稿を比較し、効果的な表現方法について考える。
- ・投書原稿を推敲し、投稿する。

④言語活動の工夫

- ・新聞を読まない生徒が多く、そもそも新聞に投書欄があることすら知らない者もいる。そのため、まずは投書の存在を知り、興味を持てるよう、実際に新聞を開いて投書を探して読むことから始める。
- ・興味のある投書を新聞から選んで交流したり、各自で書き上げた投書原稿を交流したりすることで社会問題への関心を広げ、さまざまな視点を知ることで自分の考えを深めるきっかけにもなると思った。
- ・過去に新聞に掲載された投書とその元原稿を比較することで、新聞記者がどのように原稿を手直したかを知り、読み手に伝わりやすい表現方法や構成の仕方、題の付け方などをより具体的に学ぶことができる。

⑤評価

	評価規準	評価方法	状況Cの生徒への対応

	<p>関心・意欲・態度</p> <p>① 自分の興味関心に従って記事を選択しようとしている。</p> <p>② 様々な社会問題に対して、自分の考えを深めようとしている。</p>	<p>観察（机間指導） 点検（ワークシート・原稿）</p>	<p>・難しい問題でなくてもよいので、興味を持てる見出しを探すよう助言する。</p> <p>・周囲の生徒との交流、教え合いを促す。</p>
	<p>書く能力</p> <p>① 投書から意見を読み取り、的確に内容紹介をしている。</p> <p>② 調べた内容や自分の体験に基づき、自分の考えを表現している。</p>	<p>観察（机間指導） 点検（ワークシート・原稿）</p> <p>生徒による相互評価（コメント用紙）</p>	<p>・投書の題を参考にして、書き手の意見を探すよう助言する。</p> <p>・意見と根拠（体験）をはっきりさせてから書くよう助言する。</p>
成果と課題	<p>予想以上に投書の存在を知らない生徒が多かった。そのため、新聞を開いてもなかなか投書欄を見つけられない生徒もいたが、新鮮さもあり、さまざまな新聞の投書欄に目を通し、熱心に読んでいた。難しいテーマばかりでなく、自分の身近な話題や体験談も多いことや、小学生による投書も多いことが分かり、生徒の意欲も高まった。小論文と比較して取り組みやすく、生徒の取組姿勢は良好であった。実際に投書が新聞に掲載された生徒も数名おり、またやりたいとの声も聞かれた。単発で一度書いて終わるのでなく、定期的に、あるいは機会を見つけて繰り返し取り組ませたいと思う。</p> <p>《生徒の感想より》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学生でも難しい話題について自分なりの意見を持っていて驚いた。 ・年齢も性別も違ういろんな人の意見が載っていて、投書欄を読むのはおもしろかった。 ・最近話題になっていることを取り上げて、それと自分の経験を関わらせて意見を述べるとよいと分かった。 ・新聞記者は、見ただけで言いたいことが伝わる、読み手を引き付けるような題に変えていてすごいと思う。 ・自分のクラスの仲間の投書が新聞に載って、私たち高校生の意見も取り上げてもらえるとうれしかった。 ・交流することで知らなかった問題についても知ることができ、考えることが多かった。 		
アドバイス及び留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館と連携できるとよい。本校はN I E事業の関係で数社の新聞を読み比べたり、必要な新聞記事を切り取ったりすることもできた。 ・新聞に掲載された生徒の投書を掲示するスペースが廊下に設けられているため、多くの人の目に触れることから、生徒の投書へのモチベーションも上がった。 		
小中学校との系統性	<p>中学・2年・B書くこと</p> <p>「イ 自分の立場及び伝えたい事実や事柄を明確にして、文章の構成を工夫すること。」</p> <p>「ウ 事実や事柄、意見や心情が相手に効果的に伝わるように、説明や具体例を加えたり、描写を工夫したりして書くこと。」</p> <p>「オ 書いた文章を互いに読み合い、文章の構成や材料の活用の仕方などについて意見を述べたり助言をしたりして、自分の考えを広げること。」</p>		

5 単元の学習概要

時間	各時間の目標	主な学習活動の流れと指導上の留意点	評価規準 ↓ 評価方法	状況Cの生徒への対応 ↓ 次時に注意すること
1	○新聞の投書について知る。	<ul style="list-style-type: none"> ・新聞の投書欄を見つけ、関心のある投書を選んでワークシートに記入する。 <p>【ア】</p>	<p>積極的に記事を収集している。【関】</p> <p>↓</p> <p>観察（机間指導）</p>	<p>数社の新聞に目を通して見るよう助言する。</p> <p>↓</p>

		<p>*留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒や学校の実態に合わせ、新聞を持参させるか、図書館を利用する。 ・必要に応じて記事をコピーする。 		生徒の様子を観察し、シートへの記入ができていないか確認しておく。
2 本時	<p>○選んだ投書を紹介する。</p> <p>○投書の構成メモを作成する。</p>	<p>・自分が関心を持った投書について、前時のワークシートを基にグループで交流する。【オ】</p> <p>*留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・メモを取りながら聞き、質疑応答する。 <p>・何について書くかを決め、投書の準備として構成メモを作成する。【ウ・言う】</p> <p>*留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ミニ新聞で調べたことを基に投書するよう勧める。 ・体験に基づいた投書になるよう指導する。 	<p>積極的に発言、交流している。【関】</p> <p>↓</p> <p>観察（机間指導）</p> <p>ワークシートに記入することができる。【書】</p> <p>↓</p> <p>観察（机間指導）</p> <p>ワークシートの点検</p>	<p>グループ内の他の生徒の取組を参考にしよう助言する。</p> <p>最近気になることや違和感を覚えたことがないかを考えさせる。</p> <p>↓</p> <p>生徒の様子を観察し、シートへの記入ができていないか確認しておく。</p>
3	○投書原稿の下書きをする。	<p>・構成メモを基に、原稿の下書きをする。【ウ・言う】</p> <p>*留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・書き手の立場を明確に示させる。 ・意見を支える事実や体験を必ず提示するよう指示する。 ・わかりやすい文章を心がけることを意識させる。 	<p>投書原稿の下書きをすることができる。【書】</p> <p>↓</p> <p>観察（机間指導）</p> <p>原稿の点検</p>	<p>メモの順番通りに書いてみるよう助言する。</p> <p>↓</p> <p>原稿を点検して個別に指導する。</p>
4	<p>○下書きをグループで交流し、コメントカードに記入する。</p> <p>○効果的な表現について考える。</p>	<p>・他の生徒の原稿を読み、コメントカードに記入する。【オ】</p> <p>*留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・良い点や感想を書くだけでなく、よりよい内容にするためのアドバイスをするよう指示する。 ・体験が入っているか、最初に結論から始めているかなど、相互にコメントする際の観点を示しておく。 <p>・先輩や他の生徒の新聞掲載文とその元原稿を比較する。【オ】</p> <p>*留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・二つの原稿を比較し、違う部分に傍線を引かせる。 ・気付いたことを、発表させる。 	<p>コメントカードに感想を書くことができる。</p> <p>↓</p> <p>観察（机間指導）</p> <p>ワークシートの点検</p> <p>違う部分に傍線を引くことができる。【書】</p> <p>↓</p> <p>観察（机間指導）</p> <p>ワークシートの点検</p>	<p>どのような点をチェックするとよいかを助言する。</p> <p>↓</p> <p>生徒の様子を観察し、コメントが記入できているか確認しておく。</p> <p>進捗状況の良い生徒に助言を求めよう指示する。</p> <p>↓</p> <p>生徒の様子を観察し、シートへの記入ができていないか確認しておく。</p>
5	○下書きを推敲する。	<p>・コメントカードや原稿の比較を参考にし、自分で推敲する。【オ】</p> <p>*留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コメントカードについては、自分が納得できる指摘を取捨選択するよう助言する。 ・質問があれば直接コメントを書いた人に聞くよう指示する。 	<p>文章を推敲し、下書きの原稿に記入することができる。【書】</p> <p>↓</p> <p>観察（机間指導）</p> <p>原稿の点検</p>	<p>コメントカードをよく読み、どこの部分について指摘されているかを確認させる。</p> <p>↓</p> <p>個別に指導する。</p>

6	○投書原稿を清書して投稿する。	<ul style="list-style-type: none"> ・推敲を基に、原稿を清書する。【ウ】 *留意点 <ul style="list-style-type: none"> ・ペン書きさせる。 ・生徒の進捗状況に合わせて、随時新聞社に投稿する。 	投書原稿を完成させることができる。 【書】 ↓ 観察（机間指導） 原稿の点検	下書き原稿を見ながら、原稿用紙の使い方にも注意して書くよう助言する。 ↓ 生徒の様子を観察し、個別に指導する。
	○振り返り	<ul style="list-style-type: none"> ・自己評価表に記入し、これまでの活動を振り返る。【ウ】 *留意点 <ul style="list-style-type: none"> ・原稿と自己評価表を回収する。 	振り返りを記入している。 【書】 ↓ 取組の観察 自己評価表の点検	

6 第4時の学習指導案

本時の位置	第2時間目（全6時間）		
本時の学習目標	ア 社会問題や身近な出来事に関心を持つようとしている。（関心・意欲・態度） イ 選んだ投書を参考に、投書原稿作成の準備として構成メモを作成することができる。（書く能力）		
事前の準備	①取り上げた投書の内容を考慮し、グループ分けをしておく。 ②ワークシートを用意しておく。		
	学習内容	学習活動	指導上の留意点及び評価
導入 5分	<input type="checkbox"/> 本時の目標の確認 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">自分が関心を持った投書を紹介しよう。</div>	① 本時の目標を理解する。	・最後に下書き用の構成メモを書き上げることを目標とすることを確認する。
展開 40分	<input type="checkbox"/> 選んだ投書の紹介	② 3～4人のグループになり、各自が選んだ投書を紹介する。	<div style="border: 1px dashed black; padding: 10px;"> 目標 ア に対する評価規準と評価方法 [規準] 他者の選んだ投書について知ろうと、積極的に活動している。 [方法] 取組、発表の観察 [状況Cの生徒への手立て] メモを取りながら聞くよう助言する。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">自分の経験を振り返り、投書原稿を書くための構成メモを作ろう。</div>

	□構成メモの作成	③ 何について書くかを決めるため、構成メモをワークシートに記入する。	<p>目標 イ に対する評価規準と評価方法</p> <p>[規準] 発表を聞き、作品の良い点や質問、アドバイスをコメント用紙に書き込んでいる。</p> <p>[方法] 取組の観察、記述の点検</p> <p>[状況Cの生徒への手立て] 「気になること」「これっておかしいのでは」と思うことがないか考えるよう助言する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・できる限り、ミニ新聞作成の際に調べたことを基にして原稿作成をするよう勧める。 ・調べた内容が最近の話題ではない場合は、最近世の中で話題になっていることや、自分の日常の体験を掘り下げてみるよう指示する。
まとめ 5分	□次時の予告	④次時は、構成メモを使って原稿の下書きをすることを確認する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートを回収し、生徒の取組状況を把握する。 ・書き終わっていない生徒は次時まで提出するよう指導する。